

砂丘

発行：独立行政法人 国立病院機構

鳥取医療センター

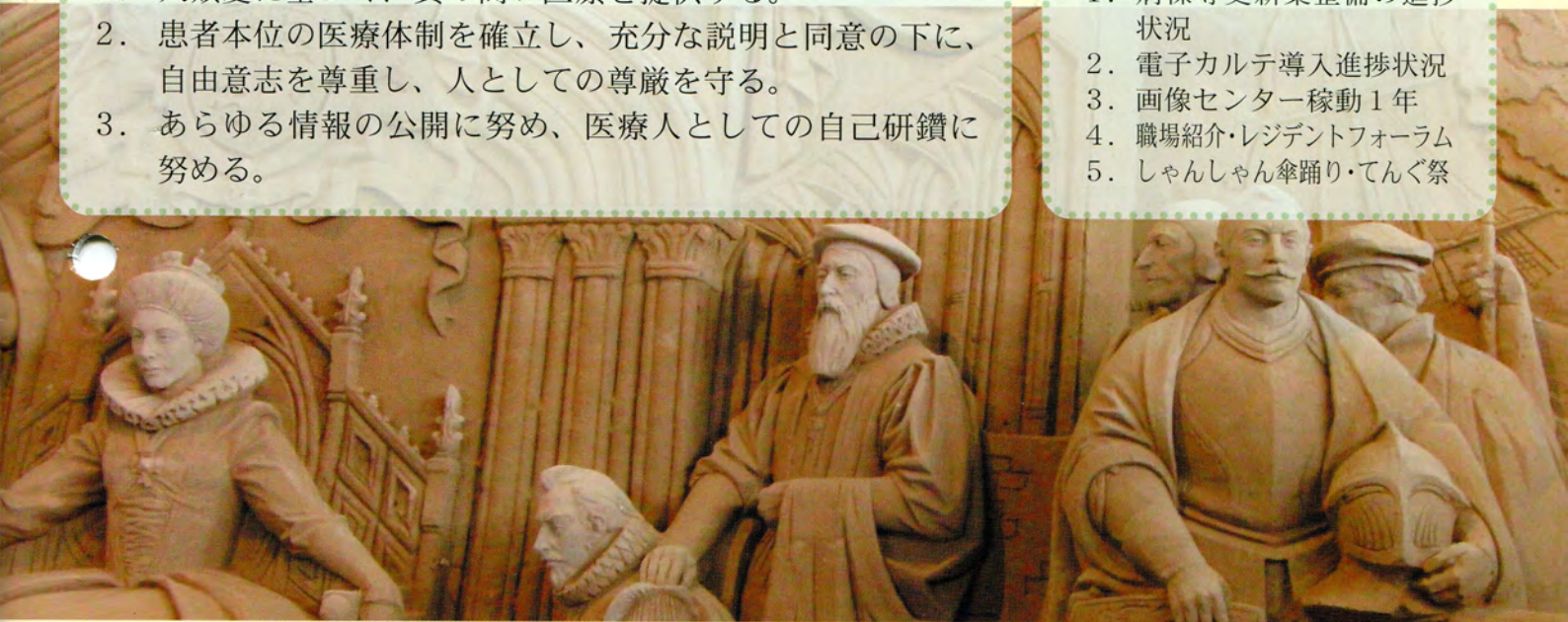
発行責任者：下田 光太郎

理念

1. 人類愛に基づく、質の高い医療を提供する。
2. 患者本位の医療体制を確立し、十分な説明と同意の下に、自由意志を尊重し、人としての尊厳を守る。
3. あらゆる情報の公開に努め、医療人としての自己研鑽に努める。

トピックス

1. 病棟等更新築整備の進捗状況
2. 電子カルテ導入進捗状況
3. 画像センター稼動1年
4. 職場紹介・レジデントフォーラム
5. しゃんしゃん傘踊り・てんぐ祭

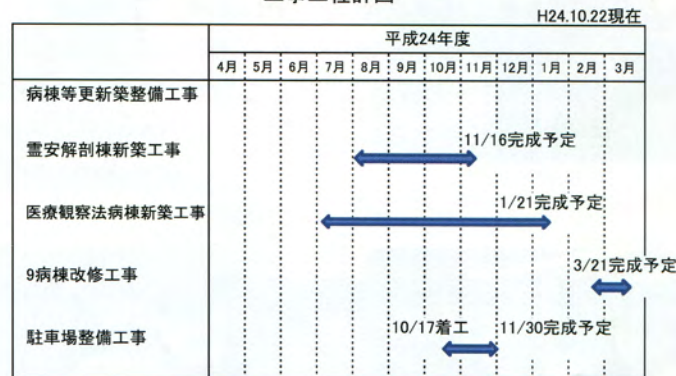


病棟等更新築整備の進捗状況

業務班長 小林 英樹

平成23年5月の着工から1年11ヶ月の長きに亘り実施している病棟等更新築整備については、現在12病棟改修工事、機能訓練棟新築工事及び重心病棟新築工事まで完成し、霊安解剖棟新築工事、医療観察法病棟新築工事並びに9病棟改修工事を残すところとなっています。

国立病院機構鳥取医療センター 病棟等更新築整備
工事工程計画



現在、医療観察法病棟建築の障害となる代わりの霊安解剖棟を建築しており、平成24年11月下旬に完成する予定としています。また医療観察法病棟は現在基礎工事が終了し躯体工事を行っているところです。躯体が出来上がれば内装等の工事を行い、病棟廻りのフェンス等工事を行い平成25年1月下旬には完成する予定としています。

(2面へつづく)



医療観察



霊安解剖

工期が予定どおりですと、平成25年2月から新しい医療観察法病棟の運営が始まることとなります。現在のユニット化病床と違い病棟としての運用となりますので、セキュリティー面など何かと違うことが出てくると思いますが、関係者の皆様のご協力をお願いいたします。

医療観察法病棟の運用が始まり次第、9病棟を元の精神科病棟に戻す工事が始まります。概ね平成25年3月中旬には完了することとなります。

また、旧7・8病棟跡地を職員用駐車場にするため、病棟等更新築整備とは別に駐車場整備工事を行っています。この駐車場は平成24年11月末には完成予定です。

長きに亘る病棟等更新築整備工事は概ねラストスパートに入っておりますが、まだまだ工事が残っておりますので、今後も皆様にはご迷惑等おかけすることもございますが、ご協力の程よろしくをお願いいたします。

○ 電子カルテ導入進捗状況 ○

企画課長 岡 清

初めて電子カルテの勉強会を開催してから1年が経ちました。足固めと入札の事務手続等に時間がかかっていましたが、秋に入り急転し作業は佳境を迎えております。9月末から外来、入院といった各項目毎のワーキンググループにより業務フローの確認、運用規約づくりをしているところです。12月からは

マスター構築、次いで1月末からはリハーサル（3回）を経て25年4月からの本稼働という流れで進んでいます。契約の相手方である富士通エフ・アイ・ピー(株)をはじめ各部門システムのベンダーとも協力しつつハードスケジュールながら無事稼働ができるようご協力をお願いします。

〈ワーキングでの検討〉



● 画像センター稼働1年を迎えての所感 ●

診療放射線技師長 富田 正二

この画像センターとは地域連携室・企画課医事・放射線科が中心となり、当院のMRI・CTを地域の開業医の先生の方々にもご利用していただくシステムで、稼働を始め7月で1年を迎えました。

開設当初は、ご満足いただける対応（接遇・画像等）が提供できるのだろうかという不安が多く占めておりました。

実際、多くの問題点が浮き彫りになってきた1年でもありました。

CD-Rの手書き、担当者不足による連絡不行き届き、不親切な病院案内図などなど。アンケートをもとにこれらを改善してきました。

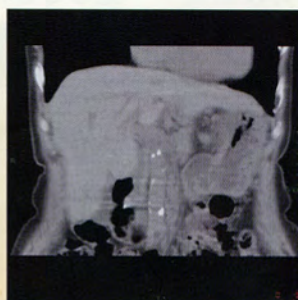
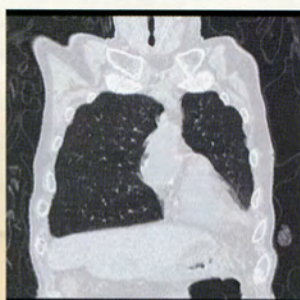
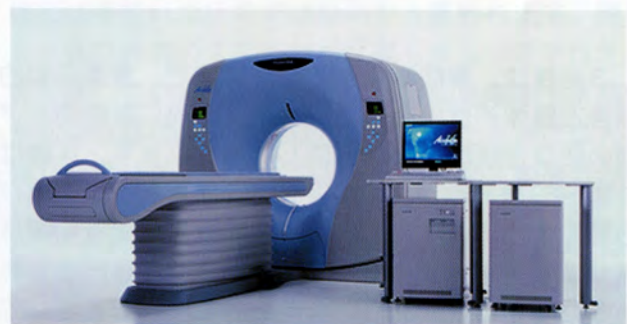
さらに、地域を限定した広報ではなく広域にしなければならなかったこと。患者様の状態によっては結果を急ぐ場合、多少の遠距離は問題ではなくいか

にスピーディーで正確な画像の提供が最優先されることというのを改めてお聞きし、改善したところです。

開設当初、利用はほとんどありませんでしたが、現在では整形外科領域を中心に月に15件程度のご依頼をいただくようになりました。

画像の質に関しましても、まだまだ、アーチファクト除去等含め未熟な点が多々ありますので改善していこうと思います。

患者様には交通等ご不便をおかけいたしておりますが、患者様・開業医の先生方の利益を最優先に画像は『早く正確に』、対応は『きめ細かく丁寧に』を心がけ、これからも各部門でさらなる密な連携を取り尚一層の努力を続けてまいりますので、ご鞭撻の程をお願いいたします。



● 職場紹介 ～地域医療連携室～ ●

地域医療連携係長 清水須美子

地域医療連携室は、医師を室長に看護師、医療事業専門員（社会福祉士・精神保健福祉士）で構成されています。1室での運営が出来ないため、現在は医療連携室と精神科相談室に別れて活動しています。

医療連携室は、看護師と社会福祉士が外来受診予約や入院予約、画像センター予約など、他医療機関からの紹介受付や他医療機関への紹介窓口機能としての活動を行いながら、病病連携・病診連携に力を入れています。また、脳卒中・大腿骨部骨折連携の回復期の患者様の在宅復帰や施設入所に向けた退院支援や外来患者様の医療相談や福祉相談、医療保健福祉関係の方々と連携しながら難病・高次脳機能障害のある患者様の在宅支援をさせていただいております。更には鳥取県東部地域の各種連携会議への出席、当院の紹介や院内研修会への参加依頼等の広報活動も行っています。

精神科相談室は、「精神科の入院・外来患者様の相談支援（病気に対する不安や生活上での心配ごと・医療福祉サービスのご相談、退院調整、精神科訪問看護）」「医療観察法患者様の相談支援」「AOT（積極的訪問チーム）」という3つの業務を、精神保健福祉士9名で分担しております。また、院内で開催される断酒会の調整、地域で行われる様々な医療保健福祉関係の会議に出席しております。精神科病床54床削減、医療観察法病棟の開棟という当院の転換期において、これまで以上に“患者様の気持ちに寄り添う”ことを大切にしながら、患者様やご家族、地域のニーズに応えられる体制整備に努めてまいりたいと思っております。

以上のように、病院の窓口として多岐にわたり日々活動しています。



● 職場紹介 ～3病棟～ ●

看護師長 国森佳子

3病棟は、重症心身障害病棟50床で、重度の知的障害と肢体不自由を併せ持った日常的に医療的ケアが必要な方が現在46名入院しておられます。年齢は2歳～67歳と幅が広く小児看護と成人看護の知識が必要です。現在、人工呼吸器装着11名、気管切開患者15名の方が入院中です。呼吸器ケアの専門性を高めることができるように、定期的に学習会を開いて学習中です。（ちなみに・・・看護師平均年齢35.7歳、平成生まれ6名）

新病棟移転によりポストNICUとしての役割をにない、その患者様を受け入れるために8床室が2部屋整備されています。また、養護学校訪問学級在籍5名の患者様には、教員がベッドサイドで授業を行ったり、在宅療育が困難な時に短期間ご家族に代わって、呼吸管理の必要な方を中心にお預かりする短期入所の受け入れ等も行っています。

看護職員は看護師28名、業務技術員4名の32名です。看護体制は、2交代制で、休日はしっかり休養できリフレッシュ、そして、冬場の出入りや育児中

の看護師や家庭の事情などで、夜間の出入りが少ないことが、働きやすい勤務体制となっています。日々の看護活動では、スタッフ同士の“和”を大切にして、患者様の日常の少しの変化も見逃さないように関心を持って寄り添い、一人一人がその人らしく成長して安全に安心して生活が送れるように日々支援しています。ベッドサイドでの療育・季節ごとの行事参加をして気分転換を図ること、また、少しでも気持ちよく過ごしてもらい、たくさんの笑顔を見ることができるよう病棟環境を整え、患者さまの個々の成長発達に合わせたQOL向上に向け、他職種と力を合わせて援助を行っています。



● 職場紹介 ～12病棟～ ●

看護師長 戸野佳子

12病棟のスタッフは看護師19名、看護助手4名で、今年度6月から回復期リハビリテーション病棟として稼働を始めました。患者様は脳卒中の後遺症と大腿骨骨折術後の方が多く入院されています。

私たちは日常生活動作の全てを生活機能訓練ととらえ、患者様が家庭復帰された時の生活状況にあわせてお一人おひとりに必要な訓練の順番や量を見極め援助をしています。また、患者様が持っておられる能力を最大限に発揮できるよう、リハビリスタッフや地域医療連携室のスタッフと定期的に話し合いを持ちながら、他職種によるチームとして取り組んでいます。

病棟ではデイルームの小さな畑にミニトマトやゴウヤの苗を患者様と共に育てたり、入浴時には家庭での場面を想定して介助のポイントをご家族に伝えたり、訓練室に設けてある調理室では実際に調理の練習をして、家庭生活が実感でき自信を持っていたできるように心がけています。

急性期病院から転院して来られた患者様ご自分

で食事をされ、会話ができるようになられ、歩行ができるようになっていかれる姿は、看護を提供している私たちにも大きな喜びと達成感を与えてくださっていると思います。一日一日の積み重ねの大切さを実感し、患者様の回復力は計り知れない大きな力だと感じます。

今後も、患者様が安心して家庭復帰できるようリハビリスタッフと力を合わせ支援していきたいと思っています。



● 第1回NHO精神科レジデント・フォーラム ●

副院長 助川鶴平

去る7月27日・28日、東京の国立病院機構本部で第1回NHO精神科レジデント・フォーラムが開催されました。

国立病院機構に限らず、地方の精神科病院は医師の確保に難渋しております。これに対して病院が医師確保に何らかの対策を行うことは当然の動きです。

第1回レジデント・フォーラムは国立精神医療施設長協議会会長の杠先生を中心に本年2月頃から準備が行われました。準備期間中最大の山場は鳥取県の全研修病院を回ってポスターとピラを配ることでした。鳥取市内だけではなく米子にある三つの研修病院も回りました。何処の病院でも好意的に話を聞いていただいたことは大変ありがたく思いました。

レジデント・フォーラムの二日間は、後期研修医・レジデントなど若手医師の研修成果発表会や日本国内でも最先端の精神科医療を行っている4人の医師による特別講演など内容は盛りだくさんで充実したものでした。また、1日目の夜に行われた交流会も楽しいものでした。

とはいえ、内容が盛りだくさんな分だけ各ブースは閑散としていました。どの病院のブースも殆ど研修医は来ていないのではないかとされます。隣にある賀茂病院のスタッフと「誰も来ないですねえ。」等と話していたのですが、二日目に鳥取赤十字病院から研修医の先生が駆けつけてくれたときには大変嬉しく思いました。ポスターとピラ配りの努力が報われた瞬間でした。

レジデント・フォーラムを今後も続けていくうちにNHO精神科としての形が出来てゆくのだと思います。原点である第一回に参加できたことを本当に喜ばしく思います。



○しゃんしゃん一斉傘踊り大会○

看護師長 神 農 祐 子

鳥取医療センターでは、新人職員や転勤者を中心に、親睦もかねて毎年「しゃんしゃん一斉傘踊り大会」に参加しています。そのイベントに私も4月に転勤してきて、運営委員として初めて参加しました。

6月から、参加者の募集をかけ、練習日程を組み、7月から週2回、室内では、多目的ホールで手とり足とり指導を受け、全体練習では、駐車場のあきスペースをぬいながら傘の回し方、連の動き方の練習をしました。時間外の練習でもあり、全員が集まることは困難で、本番は大丈夫なのだろうか、不安な気持ちもありながら練習しました。院内の皆様からのカンパにより、当日の参加者への飲み物や、衣装代にあてることができました。

当日は、降水確率100%との予報でしたが、朝から雨も上がり、太陽も顔をのぞかせ日差しの強いなか開催されました。本番では、おそろいの浴衣と半被を着て、みんなの傘も気持ちもそろい、ひとつの輪となり踊ることができました。それを見た瞬間、練習の時の不安な気持ちが一気に吹き飛び、思いっきり楽しんで踊ることができました。

たくさんの観客の前で踊ることで、みんなの気持ちも高ぶり、大会本部前では、みんな得意気に今までで最高の踊りを披露することができました。当日参加している他の団体の人たちの踊っている姿を間近で見る事で、お祭りムードに浸ることができ、私自身も心の底から楽しむことができ、祭りの魅力に



惹かれました。

さすが雨乞いの踊りだけあって、みんなの踊りが天に届いたのか、全ての踊りが終わる頃に、雨が降ってきましたが、終了の放送がかかるまで、最後までみんなで踊りきりました。踊り終わった後のみんなの顔を見ると、満面の笑顔で達成感と充実感に満ち溢れていました。

普段接する機会の少ない他職種の方々と関わる機会が持てたことは、転勤してきた私にとって、今後、他職種とのコミュニケーションがスムーズに図れていくことにつながる良い機会だったと感じています。

ご協力して下さった皆様、参加して下さいました皆様、当日の準備を手伝って下さった皆様、本当にありがとうございました。無事に大役を終えることができ感謝の気持ちでいっぱいです。



てんぐ祭

療育指導室 保育士 山根 幸子

新病棟になり初めての『てんぐ祭』が10月3日(水)C棟4階と各病棟内で開催されました。今年のテーマは、“みんなに届け！三津の笑顔と元気”でした。催し物は、作品展示、お菓子バイキング、ゲーム、そしてなつかしの映像上映会。そしてテーマにちなんで、患者さんのステキな笑顔の写真も各病棟に掲示させていただきました。

作品展示コーナーは今年是一段と力が入っていました。各病棟合同の力作をはじめ、個人の作品(写真、絵画、造形)、療育グループの作品等々例年以上の出展がありました。お菓子バイキングコーナーでは、プリンとコーヒー牛乳が大人気でした。なつかしの映像上映会では、「あっ！あの人〇〇さん？スマートだなあ。」「〇〇さんかわいい。」など懐かしがられる声も聞かれとても楽しんでいただけたようです。

さて、私が担当したゲームコーナーでは、福笑い、ボーリング、的あての三本立てでのぞみました。福笑いは、まあるい顔の台紙に目などのパーツを貼り付けたら出来上がり。患者さんを忘れ



て(?)必死に製作している家族の姿もありました。たくさんの方の(・̀)笑顔が出来ました。ボーリングでは、誰でも玉を転がせる台付き投球マシンから、大きな玉を転がしてペットボトルのピンを倒します。いっぱい倒した方には、特製のうちわ(ちょっと不評だった?)がもらえました。優しいボランティアさんの誘導で、みなさんいっぱいピンが倒れ大喜びでした。さて、的あては「めざせ！リオ(次期オリンピック開催地リオデジャネイロ)」を合い言葉に、的に向かってボールを投げるゲームです。高得点者には、カーニバルもどきの衣装を着けて写真撮影のプレゼント。ここもやはり優しすぎるボランティアさんのおかげで高得点者が続出。一時は、記念撮影待ちの行列が出来るほどの大賑わいでした。

やっぱりお祭りは楽しいですね。大きな行事は準備もたくさんあるけど、患者さんの笑顔が見られれば、それもまた楽し！ボランティアさんや家族の方々といろんなふれあいが出来てそれもまた楽しです。来年の祭りは、もっとたくさんの方々とふれあえたらいいなあ。。。

外来診療科担当医表

独立行政法人国立病院機構鳥取医療センター

平成24年10月1日現在

			月	火	水	木	金
内科	循環器		松本		松本	松本	松本
	呼吸器		山本	山本	山本		
神経内科	1	高橋	齋藤 (てんかん)	井上	金藤	土居充	
	2	下田	下田	金藤 (嚙下外来)	土居充	土井あかね	
	3	小西	土井あかね	齋藤	小西	井上	
	4				三島		
小児科			中野	小松	赤星	中野	赤星
精神科	初診 (完全予約制)	診察室6	急患のみ	休診	坂本	幡	高田
	再診	診察室1	高田	助川	土井清	高田	柏木
		診察室2		坂本		助川	土井清
		診察室3		幡	幡		坂本
		診察室5		池成		林	
		診察室8			岡田		
外科			古澤	古澤	古澤	古澤	古澤
専門外来	睡眠外来 (完全予約制)	精神科5	坂本		高田		
	神経内科 (予約制)		失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害 てんかん	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害 嚙下障害 てんかん	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害
	小児科 (予約制)		発達外来 小枝	発達外来 赤星	発達外来 中野/関		
リハビリ入院相談		地域医療連携室	金藤	金藤	金藤	金藤	金藤
					予防接種 15:00~16:00	第3水曜日の予防接種は予約なし	

◆所在地 〒689-0203 鳥取県鳥取市三津876番地

◆電話 0857-59-1111

◆診療受付時間 午前8時30分～午前11時30分

◆専門外来診療時間 午後1時30分～午後3時00分 (睡眠外来の受付時間は午前中です)

◆休診日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始、ただし、急患の方はこの限りではありません。

◆ホームページ <http://www.hosp.go.jp/~nistori/>

◆地域医療連携室 TEL 0857-59-1111 (内線275) FAX 0857-59-0713